

伝染性紅斑(りんご病)が増加中!



県内の患者数

	今週	前週		今週	前週
インフルエンザ	↗ 1	0	百日咳	→ 0	0
RSウイルス感染症	↘ 38	55	ヘルパンギーナ	↘ 6	9
咽頭結膜熱	↗ 27	12	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	↗ 64	47
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↗ 92	73	急性出血性結膜炎	↗ 1	0
感染性胃腸炎	↗ 544	518	流行性角結膜炎(はやり目)	↗ 38	34
水痘	↗ 9	7	細菌性髄膜炎	↗ 1	0
手足口病	↗ 12	15	無菌性髄膜炎	↗ 1	0
伝染性紅斑(りんご病)	↗ 78	49	マイコプラズマ肺炎	↘ 9	11
突発性発しん	↘ 40	44	クラミジア肺炎	→ 0	0
			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	↗ 2	1

報告が多い感染症
 感染性胃腸炎
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎
 伝染性紅斑

大きな流行が発生又は継続しつつある地域
 感染性胃腸炎 : 菊池、八代
 伝染性紅斑 : 菊池、熊本市、天草
 流行性角結膜炎 : 熊本市
 急性出血性結膜炎 : 有明

保健所別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)

保健所名	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	
熊本市保健所		14	4	50	78		2	36	15			7		35	1	1	7			2
山鹿保健所					26		2					6	*	*						
菊池保健所		11	9	15	136	5	6	25	5		4	14								
阿蘇保健所					3								*	*						
御船保健所				3	25			2					*	*						
八代保健所	1	7	3	3	58			7	5											
水俣保健所		3		1	6			2					*	*			2			
人吉保健所				2	34	1		4				9	*	*						
有明保健所			10	9	83	1		5				18	1	3						
宇城保健所		2	1	2	38	2		1	2			10	*	*						
天草保健所		1		7	57			2	2		2									
計	1	38	27	92	544	9	12	78	40	0	6	64	1	38	1	1	9	0	2	

年齢別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)

インフルエンザ定点	合計	0~5カ月	6~11カ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80歳以上
インフルエンザ	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小児科定点年齢	合計	0~5カ月	6~11カ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20歳以上						
RSウイルス感染症	38	4	13	15	4	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0						
咽頭結膜熱	27	0	2	6	3	5	3	2	1	4	1	0	0	0	0						
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	92	0	0	2	4	4	16	17	9	8	6	10	14	2	0						
感染性胃腸炎	544	5	35	86	76	61	48	39	36	26	19	17	55	7	34						
水痘	9	0	2	1	2	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0						
手足口病	12	0	0	7	2	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1						
伝染性紅斑	78	0	0	0	3	9	11	10	9	8	12	8	4	0	4						
突発性発しん	40	1	16	19	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0						
百日咳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						
ヘルパンギーナ	6	0	0	2	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0						
流行性耳下腺炎	64	0	0	8	7	5	7	13	11	5	4	2	1	0	1						
眼科定点年齢区分	合計	0~5カ月	6~11カ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70歳以上	
急性出血性結膜炎	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
流行性角結膜炎	38	0	0	3	2	1	0	2	4	1	0	0	0	2	3	9	7	2	1	1	
基幹定点年齢区分	合計	0歳	1~4	5~9	10~14	15~19	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70歳以上				
細菌性髄膜炎	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0				
無菌性髄膜炎	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
マイコプラズマ肺炎	9	0	3	2	2	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0				
クラミジア肺炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				

伝染性紅斑は、幼児から学童の小児を中心にみられる流行性の発疹性疾患です。本県においては、6月頃から増加しており、以後増減を繰り返しながら増加傾向が続いています。今週においては、菊池、熊本市において国の警報レベルを超え、天草でも警報レベルが継続しています。



伝染性紅斑(りんご病)が増加しています

伝染性紅斑は、10~20日の潜伏期間の後、頬がりんごのように赤くなるので、りんご病とも呼ばれています。続いて腕、脚にも両側に網目状の発疹がみられます。発疹は通常、1週間前後で消失します。成人では両頬の紅斑はあまりみられません、関節痛や関節炎がみられることがあります。多彩な症状がみられますが、不顕性感染(感染しても症状が現れない状態)も一定率(約4分の1)存在することから、届出以外にも感染者が存在すると考えられています。

通常は、飛沫感染もしくは接触感染で感染します。妊婦さんが感染すると、流産の可能性もありますので、流行時には人混みを避けて、丁寧な手洗い励行、食器の共有を避けるなどの対策をとりましょう。

